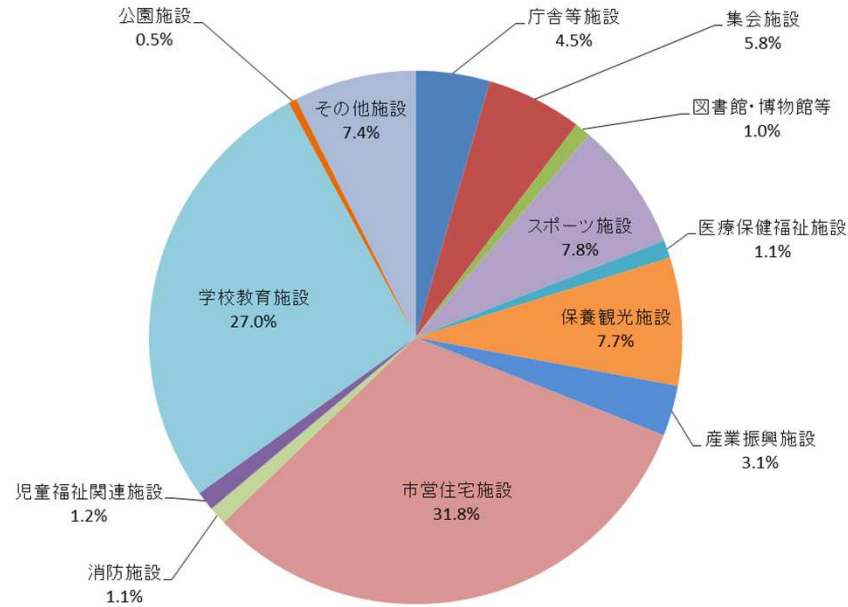


別府市公共施設再編計画について

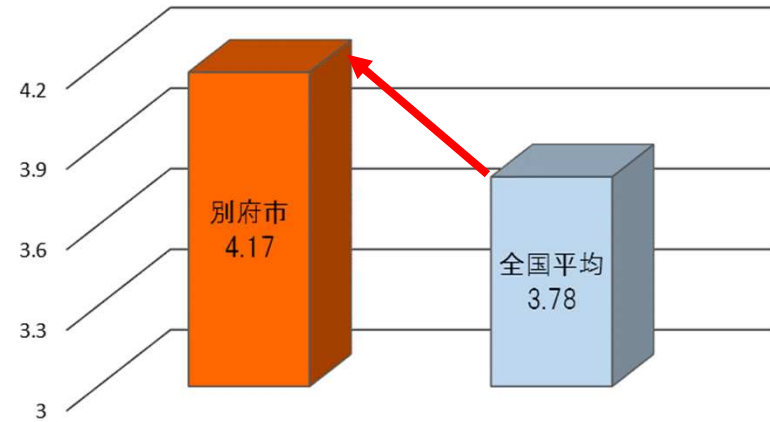
新しい公共空間のあり方を市民と協働で考える

別府市共創戦略室公民連携課

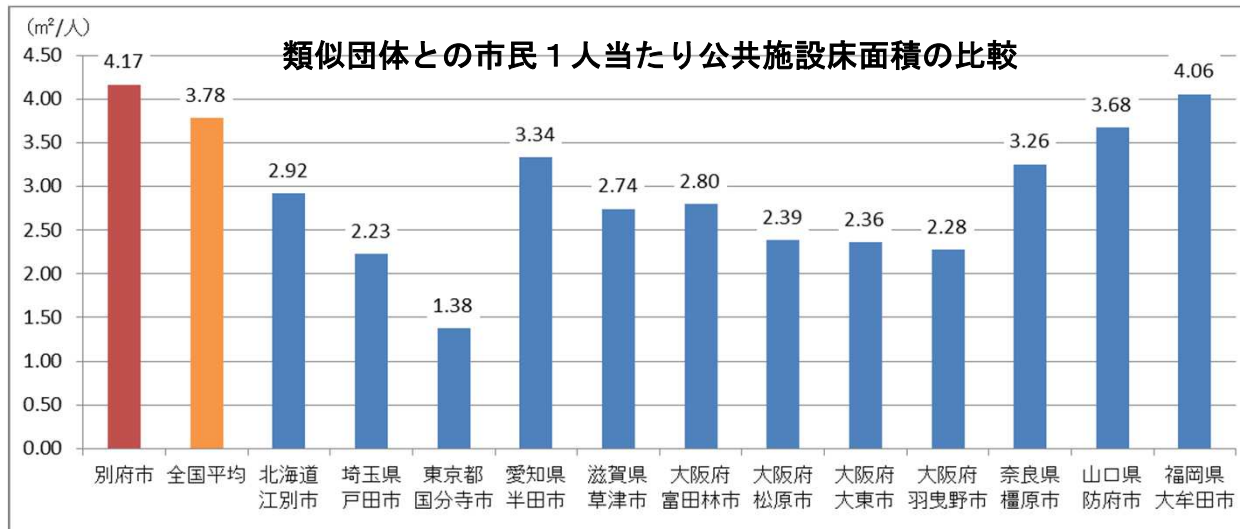
別府市の公共施設の現状



市民1人当たり公共施設床面積



別府市は平成26年末時点。全国平均は平成24年度末の総務省「公共施設状況調」と住民基本台帳人口から計算。

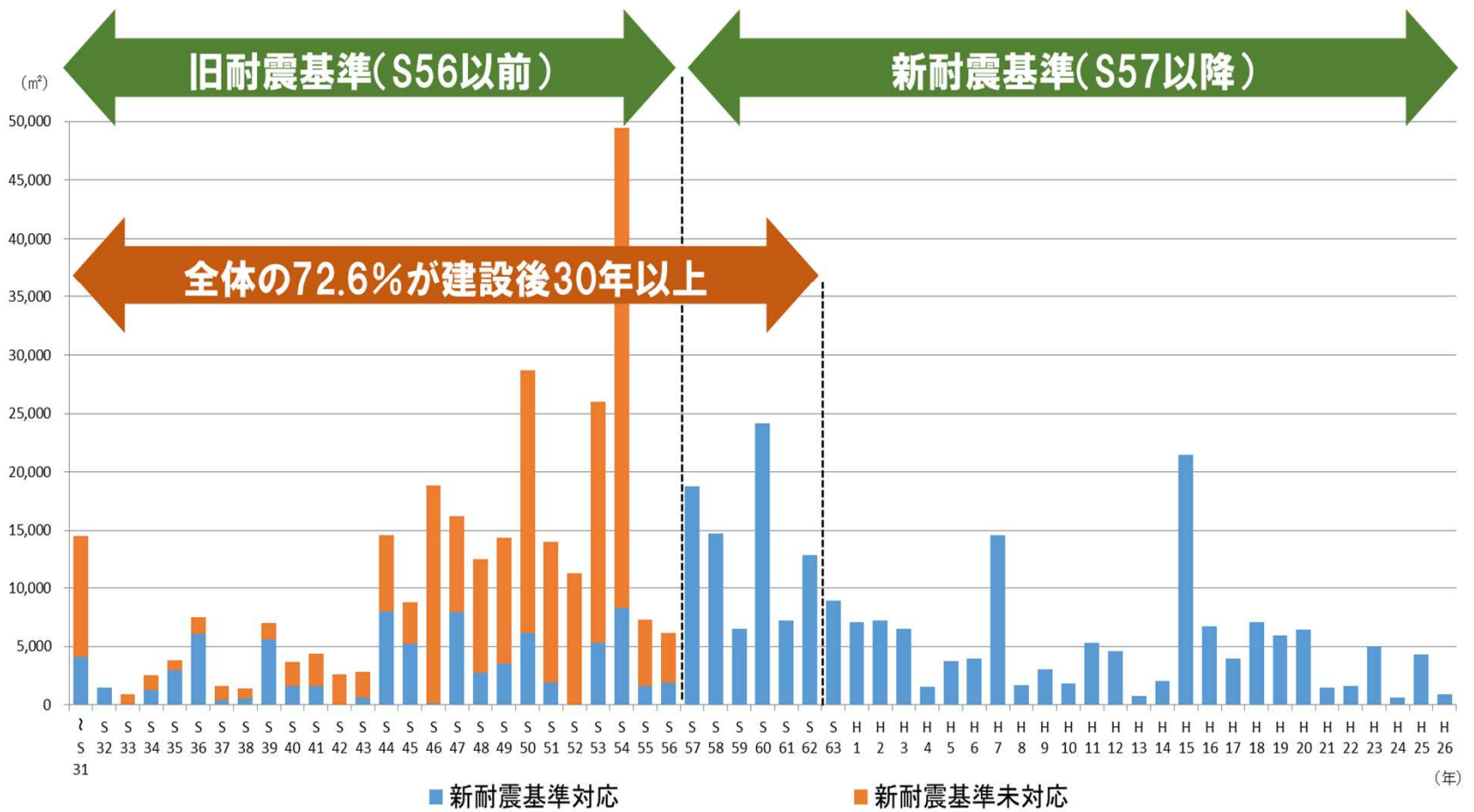


別府市の公共施設
総量 = 385施設
床面積約50万m²



×39個分

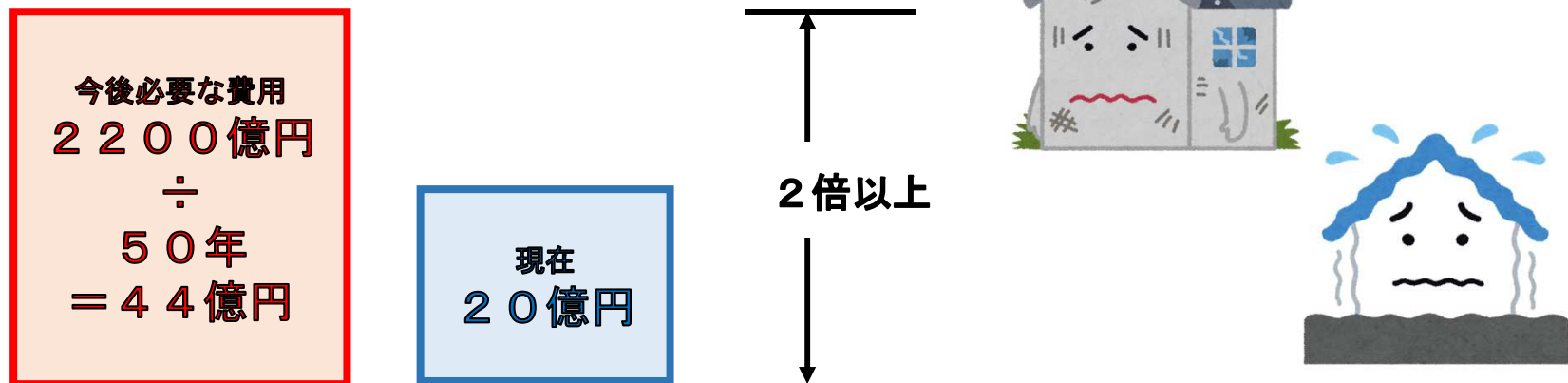
■ 築30年以上の建物数7割、40年以上4割と老朽化
 ■ 旧耐震基準で建設された建物の床面積が全体の約6割



なぜ公共施設を再編しなければならないか？

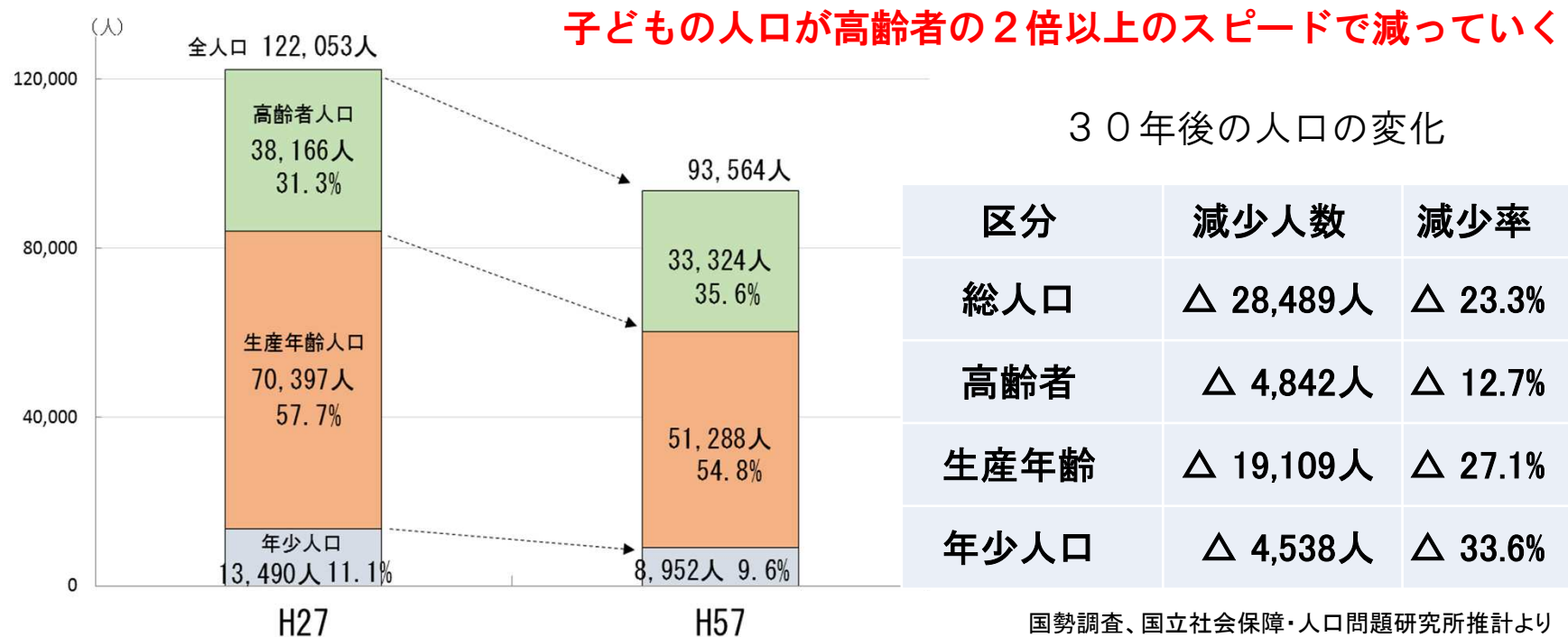
- 老朽化・耐震化未対応・標準耐用年数を超過する建物
- 各部屋の利用率が30%以下など、稼働率の低い施設
- 集会室や会議室など、機能面で見た重複や配置の偏り
- 全体の8割の施設が赤字のため税金の負担割合が高い
- 本来の目的に応じた使い方が、少なくなっている施設

○今後の施設の改修等に必要な経費（試算）



現在の保有施設を全て維持更新していくと、現在の予算の2倍以上のお金が必要です。

これからの別府市の人口や財政はどうなる？



人口が減る
(生産年齢人口)



税収が減る



未来の納税者に
大きな負担

社会保障費等が増えて収支が不足するため市の基金が減っていく見通しです。

公共施設をどのように再編していくか？

【目標】

公共施設に係る費用を今後30年間で30%以上圧縮する

住民サービス機能の集約化と複合化を進め、公共施設の総量を減らします。

■ 機能とハコモノを分けて考える

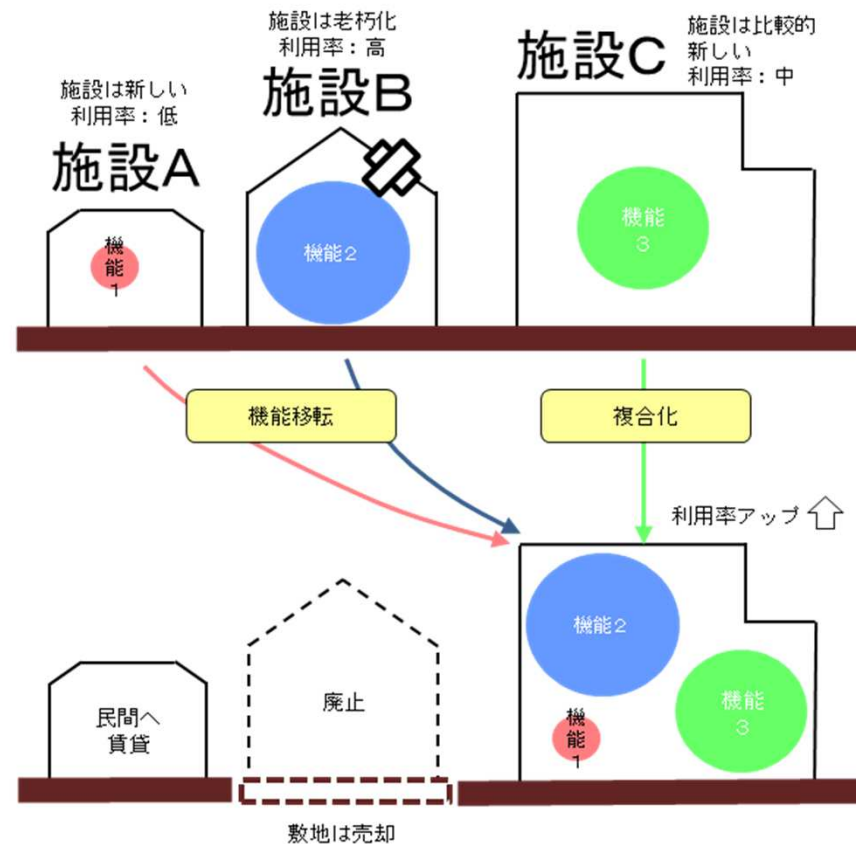
公共施設の稼働率を向上させ、利用料金や減免制度の見直しを行います。

■ 利便性向上と管理コストの縮減

公共施設の整備や運営等に民間活力を導入し、民営化等も検討します。

■ 民間資金やノウハウを活用する

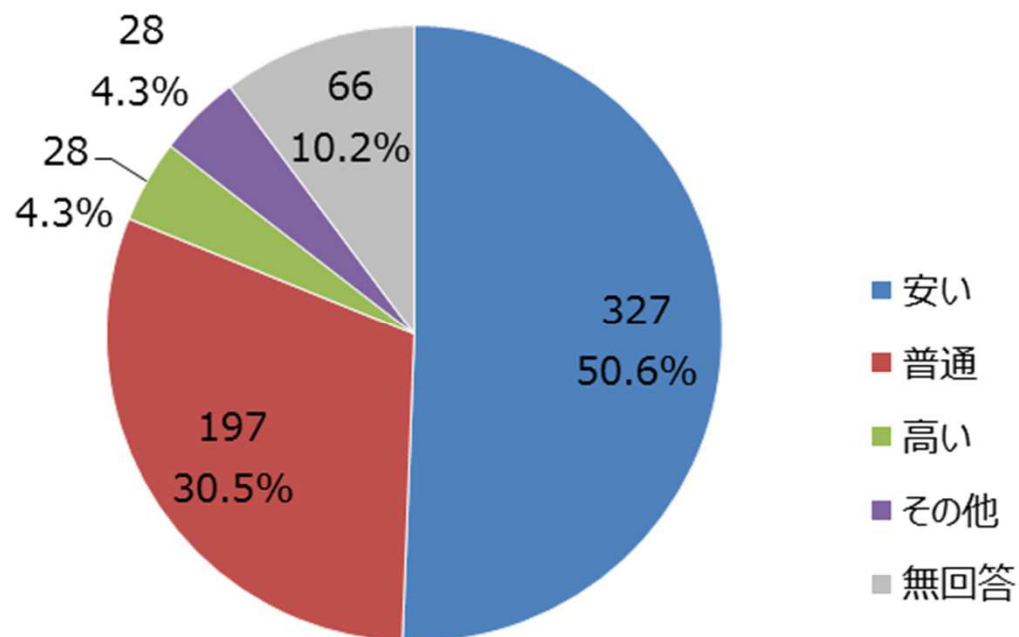
低利用、老朽化が著しい施設等は原則廃止



公共施設利用者アンケートより（平成28年8月実施）

- 市営温泉14施設を対象に1050枚のアンケートを配布。回収率61.5%。

Q. 市営温泉の入浴料(施設使用料を含む)について、どう思いますか？



- 「安い」と回答した人が5割を超え、「普通」と合わせると8割以上を占める
- 田の湯温泉は「安い」が8割近く、竹瓦温泉、不老泉も「安い」が6割を超える
- 入浴料金510円の鉄輪むし湯、1,030円の別府海浜砂湯は「普通」が7割近くを占める

公共施設再編計画に関する意見書

平成29年3月 別府市公共施設再編計画検討委員会（有識者4名、市民代表2名）

- 収益事業化し、民営化も含め民間活力を積極的に導入すべきである。
- 出張所と公民館など、行政機能の複合化・集約化を図るべきである。
- 温泉施設の維持運営に必要な料金負担を利用者に提示すべきである。
- 将来の別府のあり方について市民と真剣に対話を重ねるべきである。

公共施設再編計画を推進する目的

■再編計画は、施設を減らすことだけが目的ではなく、施設と機能を分けて考えます。市民が必要とする行政サービス機能を維持し、一人ひとりの満足度を高めます。公共施設の再編を、新しいまちづくりの機会と捉え、これからの時代に合った新しい公共空間のあり方を市民と協働で考えていきます。再編をすすめるにあたっては、市民の皆様への説明を丁寧に行っていきます。